天地

ネットワーク テーブル　５０８号

天地シニアネットワーク　２０２０．６．１５

TENTI TODAY ＜心に残る言葉＞			1
会員の広場			2
随　想	英会話の楽しみ （７） 英語の言葉遣い	伊那闊歩	3
論　考	中国人から見た日本人の言語表現理（１６） ＜「しか」の表現心理＞	兪彭年	7
随　想	土佐弁と伊予弁・方言の面白さ	池端千一郎	9
随　想	「海外の思い出」ポルトガル/オポルト空港での麻薬持ち込み容疑	森永義彦	１１
随　想	コロナ禍のあと	大須賀四郎	１２
講演会	「新三木会」「奈良興福寺文化講座」		１３
事務局			１４

****

ＴＥＮＴＩ　ＴＯＤＡＹ

****

コロナ禍に対する制約が緩和され、新三木会の講演会も６月から急遽再開となったようです。しかし、気分としては、まだまだ安心できないという人が多いのではないでしょうか。持病、コロナ、熱中症と三重苦、高齢者の苦難はつづきます。

****

明るくするのは、プロ野球が今週から始まること。過去の名場面、名勝負の再見も良いのですが、生の試合には予期しない感動があります。７月からはJリーグ、さらには大相撲の開催もありそうで楽しみです。ただ無観客試合では、盛り上がりに欠けるかもしれません。

****

アマチュアスポーツは、依然として休眠状態のようで残念です。母校の大学のクラブも、体育館の使用が禁じられ、一体での練習はできないとのこと。新入生の勧誘もＮＯのうえ、春の公式試合はすべて中止では、チームの存続が危ぶまれます。決定が、管理する大学側なので慎重にならざるを得ないのでしょうが、社会経験として検討を学生に任せ、自主的な運営をさせたほうが良いと思っています。

****

高校野球が８月に春の選抜高校野球に出場するチームが集まって、甲子園球場で１回戦だけ行うと発表されました。日帰り、応援団なしで無観客など、いろいろ制限があるようですが、決断としては素晴らしいと感じています。とわいえ、もし高校球児に検討させても＜日帰りでもいい。応援してくれる高校の仲間と、一度だけでも甲子園で試合をしたい＞と同じような結論がでたような気がします。そのほうが、教育

面を含めて、大会がもっと意義のあるものになると考えるのですが・・・。
****
　大学のスポーツ界も上級生が就職の心配で＜それどころではない＞ということでしょうが、自分たちの将来に関わることですから、選手がもっと発言し、自分たちで現実対応をするべきです。そのためにも大人の側の論理、習慣は変えなくてはいけません。
****
　在宅勤務、リモート会議などが一気に広がり、社会のデジタル通信が加速しています。高齢者にはなじみにくい世界で、水を差したくなりますが、流れは変えようがありません。関心を持つか、無関心でいるか、選択を迫られています。
****

『心に残る言葉』

＜つまづいたおかげで＞

つまづいたり、ころんだりしたおかげで、物事を深く考えるようになりました。

あやまちや失敗をくり返したおかげで、すこしずつだが人のやることを暖かい眼でみられるようになりました。

何回もおいつめられたおかげで、人間としての自分の弱さとだらしなさを、いやというほど知りました。

だまされたり、裏切られたりしたおかげで、馬鹿正直で親切な人間の暖かさも知りました。

そして身近な人の死に逢うたびに、人のいのちのはかなさと、いまここに生きている尊さを、骨身にしみて味わいました。

人のいのちの尊さを、骨身にしみて味わったおかげで、人のいのちをほんとうに大切にするほんものの人間に裸で逢うことができました。

（『いまここじぶん』 相田みつお　５９頁）

＜微笑み＞

どのような苦しみにも　暖かい微笑みを
どのような悲しみにも　明るい微笑みを
どのような恐れにも　　たじろがない微笑みを
どのような不安にも　　和やかな微笑みを
どのような誤解にも　　思いやりの微笑みを
どのような憎しみにも　やわらぎの微笑みを
どのような冷たい目にも　親しい微笑みを
どのような裏切りにも　黙って微笑みを

（『河野進詩集』１５６頁）

以上、廣澤敏明・牧いずみ編集 「祈りと聖書の言葉」 より

****
****

会員の広場

****

英会話の楽しみ（７）

伊那　闊歩

7.英語の言葉遣い

1.　言葉遣いというと漠然としているが、今回は英語独特の言い回しについて考えたい。「どうもありがとう」というときに、Thank you very much.あるいはカジュアルに Thanks a lot.　というが、Thank you a lot.とは言わないのだ。Many Thanks と言うが Thanks very much　と言っても良い。こういう言い回しの規則をコロケーション(collocation)という。mind と thought は「考え、意見」という意味で同じように使われる。ところが「自分の意見(希望、目的)を変える、気が変わる」という意味で change my mind というが、これを　change my thought とは決して言わないそうだ。こういう習慣に反した言い方をしても相手に通じるかもしれないが、ネイティブ・スピーカーが聞けば奇異に感じるのであろう。ひたすら正しいコロケーションを憶えて、時間はかかるがそれに慣れるしかないのだ(*1)。

　ちなみに、日本の子供たちが、野球をしていて、エラーしたり三振したりする少年(少女か)を励ますために「ドンマイ、ドンマイ！」と声をかけることがよくあるが(昔のことか？）ドンマイとは Don't mind　なのだという。ところが、この意味は声をかけた本人がドンマイ（I don't mind　の略）と思うのであって、失策した他人を励ますならば Don't worry　または Never mind（気にするな）と言わなければならない。この単語 mind　は名詞ならば「心」(*1)を、動詞ならば「気にする、嫌がる」という意味で、たとえば相手に許可をもとめて

　Do you mind my opening the window?（窓をあけてもかまいませんか）

という。ここでもし　my　がなければ相手に頼むことになって「窓をあけていただけませんか」という意味になる(*2)。同じく

　Do [Would] you mind my eating here?（ここで食べても構いませんか）

とモネの「睡蓮」の絵の前で質問されたとしよう。もしあなたが美術館の事務員であったならば、Yes, I do(いいえ、だめです)と言わなければならない。Yes と言われたので許可されたように質問者はつい勘違いしてしまうかもしれないが、実は強い調子で拒否されているのだ。さらに(絵を手に取ってもよいか、という意味ではなく)写真を撮っても良いかという意味で：

　Do you mind if I take some pictures?（写真を撮っても構いませんか）

と聞かれて、撮影自由な場合は「かまわないよ」という意味で　Certainly not あるいは　Of course not(勿論どうぞ）と否定文で答える。同じことを肯定文として答えるならば、Go ahead あるいは Sure(どうぞ)という(決して Yes と言ってはならない！)。た

だし美術館の看板に NO PICTURES と書いてあったならば「写真撮影禁止」なので、質問者は、Yes I do (だめ！) と断られる。この看板は、ここに「絵はないよ」と言っているのではない、念のため (*1)。

(*1)「こころ、心」を意味する言葉は多い。聖書(NKJV = ニュー・キング・ジェームズ・ヴァージョン)の有名な1節：You shall love the Lord your God with all your heart, with all your soul, and with all your mind. (**心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。[マタイによる福音書 22 章 37 節]**)には 3 種類の心、heart, soul, mind がでてくる。これらをそれぞれ 心、精神、思い、と訳しているが、はてこれらの違いは何であろうか。

Heart は My heart aches(胸がいたむ) のように感情の動きに、mind は My mind is occupied with problems(頭は悩み事でいっぱいだ)のように理性や知性の動きに、また soul は Do you believe in the immortality of the soul? (霊魂不滅を信じるか)というように肉体とは別に存在するであろう(不滅の)霊的なこころに重点をおいた「心」を意味するという。霊魂不滅を信じるからこそ soul という言葉が存在するのであろうか。

このほかに mentality(知力、知性、頭のはたらき),spirit(精神、心)などという言葉もある。Mental(知力の) は、physical(身体の)と対比されるように、心の状態、働き、程度、傾向を問題にするときに使われる。たとえば She is sixteen years old but has a mental age of five.(彼女は 16 歳だが精神年齢は 5 歳だ) mental age は精神年齢であるが、一方、知能テストは intelligence test といい、メンタルテストとは言わない、

Spirit はこの世の、神をはじめとする生きとし生けるもの、および死人もふくめて持っているであろう普遍的な soul を意味すると思われる。もちろんたとえば The Pope is the spiritual leader of many Christians.(教皇はキリスト教徒の精神的指導者である)というように限定的な意味に使われることもある。

(*2) 次のような聞き方：Do you mind me asking your surname? (**名字をうかがってもかまいませんか**)もあり、my のはずが me になっている(濱田伊織「英語で円滑に世間話をするための会話術」ベレ出版)。それぞれ慣れなければならない。

2. ２つ以上の単語の集まりをチャンク(chunk = group of words)と呼ぶことにしよう。主語と動詞があって何かを表現しているとき、そのチャンクをクローズ(clause = 節)と呼ぶ。クローズはひとつの文章である。主語あるいは述語がなくクローズになっていないチャンクをフレーズ(phrase = 句)と呼ぶことにしよう(*3)。

フレーズに含まれる単語の意味はそれぞれ良く知ってはいるが、それらをまとめて全体としての意味を類推してみると、それが思いもかけないものになっていて、しかもネイティブ・スピーカーが日常的に多用するフレーズが英語にはたくさんある。これらは英語の成句あるいは熟語(イディオム、idiom)、慣用句、動詞句などいろいろあるが、ここではそれらをひとまとめにして**イディオム**ということにしよう。イディオムに習熟しておくことはたいへん重要である。たとえば、run into というイディオム、その意味は素朴に「どこかに走り込む」ということではないかと考えられるが、じつは

I ran into an old schoolfriend at the supermarket this morning.　（今朝スーパーマーケットで昔の学友に偶然出会った）

The project is running into financial difficulties due to the spread of infections with the new coronavirus. （その計画は、新型コロナウイルスの感染拡大で、経済的困難に直面している）

のように「誰か(何か)に偶然出くわす」という意味で多用されるのだ。ここで due to(～のために、～による)もよく使われてなじみ深いイディオムである。

次の文章は、現在ホンコンで制定されている１国２制度(one country,twosystems)の危機について書かれた英字新聞,April 26,2020 の記事である:

There have been moves in which authorities have suppressed antigovernment forces by taking advantage of the situation in which efforts to prevent the spread of the new coronavirus make it difficult for people to gather for protests. Ratcheting up authoritarian rule under the guise of dealing with the crisis cannot be overlooked.　（新型コロナウイルスの感染防止のため、人々が抗議に集まりづらい状況に便乗し政権に反対する勢力を抑え込む。危機を口実にした強権統治の加速は看過できない）

(authority:権威、当局、その筋という意味で多用される。authoritarian rule: 強権統治、antigovernment forces:政府に反対する勢力）

文章が長いので読みづらいかもしれない。これだけの文章のなかにも

take advantage of: (機会など)を利用する、(弱みなど)につけこむ　ratchet up: 徐々に動きを速める＝ 加速する　under the guise of:(何か)のふりをする、装う deal with:取り組む

など、イディオム(慣用表現)が有効に使われている。その時、その場にピッタリした慣用表現は、文章を活性化させ生きいきした臨場感を与える。

ひどい降雨を表現するのに中学校で It's raining cats and dogs.(土砂降りの雨だ)という文章を教えられる。熟語 cats and dogs が面白いので、記憶に残り、誰でも一度はお目にかかったことがあるにちがいない(*4)。

ところが、こうした colorful な(華麗な、派手な、ともすると品の悪い)言い回しをするときには、よほど注意しないと相手にたいへん奇異な感じを与えてしまう。イディオムは、その意味と使い方を十分理解した上で使わなければならない ― と筆者(闊歩)が常に座右においている本「Practical English Usage」(Oxford)の著者 M. Swan は忠告している。

さらに、英語のイディオムは無数にあって、それらを一つひとつ記憶すると同時に TPO(Time, Place, Occasion)に応じてそれらの使い方にも慣れるということはたいへんなことで長い時間がかかる。イディオムについての教科書はいろいろあるが、その中には、古くさくて現在ほとんど使われないものや、スラングっぽいものなども入っているので、注意しなければならない ― と Swan 先生はいう(*5)。

(*3)チャンクは単語の出鱈目な集まりではなく、いちおう単語の意味のある集まりとする。クローズやフレーズは筆者(闊歩)が以下の説明の便宜のために暫定的に定義したもので、一般的な定義とは若干異なるかもしれない。U 先生によれば、Set-phrase ということもあるそうだ、

(*4)土砂降りの表現はこのほかにも、The rain bucketed down all afternoon.(午後はずっとバケツをひっくり返したようなひどい雨だった)とか
The rain came down in buckets. ここで buckets は(複数形で) large amount(大量) という意味である。She wept buckets. (大泣きした)などの例文もある。さらに J. D. Salinger [Catcher in the rye] には It was raining like a bastard out. という文章があり、訳者-野崎 孝氏はこれを「**外は雨がジャカスカ降っていた**」と訳していて筆者(闊歩)は初めて読んだとき、その訳「ジャカスカ」にたいへん感動した。

(*5) どこで初めて見たか(聞いたのではないが)忘れたが pop the question というイディオムがある。「疑問がはじける？」字面からは何のことやら想像がつかないが、これがなんと「プロポーズする」という意味で、It takes courage to pop the question.(プロポーズするには度胸が要る) などという。現代の若者の間でインフォーマルにつかわれている。頭のなかにたまったモヤモヤが一度にポップコーンのようにはじけるようなことなのか、アララ！

3. 英語を母語とするひとたちが普通に喋っているのを聞くとかなり早口ではないかと思われる。テレビのニュース・キャスターの喋る速さは 1 分間に 180～220 語だそうだ。つまり、秒速 3～4 語なのだ。筆者(闊歩)も最初はこの速さにとてもじゃないがついて行けないと思った。ところがいろいろな単語の正しい発音を憶え、よく使われる言い回しに慣れてきて聞こえるようになると、あれほど恐れをなした会話のスピードも速く感じることがなくなってきた。

ところが、まだ憶えていないコロケーションで攻めてこられると、とたんに相手の喋るスピードが速くなったように感じ、最悪の場合、雑音にしかきこえなくなるのだ。米国の大学での経験なのだが、講義やセミナーのスピーチが終わった後で(教会の説教は別として)質問の時間になる。質問を受けた教授は、まず Well(**そうだなぁ**)と言ってワンクッション置く。説明が込み入ってきて言いなおしたいときは I mean(**つまり、要するに**)という。フォーマルには、That is to say(言わば); In other words (換言すると) などと言う。Swan 先生の本には次のような例文があった:

I can't get to the hospital to see Julie. I mean, not this week, anyway.
(**ジュリーを病院に見舞いに行けない。つまり、ともかく今週はね**)

ここで anyway(**ともかく、いずれにしても**)もよく聞く。会話がインフォーマルになってくると人によっては You know(でしょ？ あのね)を話の途中で連発する。You know what I mean? (言わんとすることわかるよね)と念を押す言葉もよく聞く。これらは英語話者の口癖のようなもので、なかでもよく耳にするのは sort of; kind of (多少、やや)である。たとえば:

This music's kind of boring(この音楽ちょっと退屈だな)、

She's kind of strange (彼女はなんだかおかしいぞ)

I’ve changed my mind, kind of.（すこし考えを変えたよ）

のようにつかう。「昨夜のデートはどうだった」と聞かれたときには

Yeah, kind of. （あー、まあまあかな）

などと答える。

以上、英語話者がよくつかうイディオムの例を、筆者(闊歩)がこれまでの経験に基づいて思いつくままに書き出してきたが、現在最もよく使われるイディオムの一覧表が作られており(*6),そのうち頻出度の高い約 300 フレーズの使い方に習熟すればよいと思われる。これはたいへんだ、先は長いぞと思うこともない、これらのほとんどは中学、高校の教科書で一度はお目にかかったものなのだ。思い出すままにただ慣れれば良いだけのことなのである。

(*6) The Most Frequently Used Spoken American English Idioms （Dilin Liu,2003）
日向清人「英語はもっとイディオムで話そう」(語研） 伊藤　太「基本の 78 パターンで英会話フレーズ 800」(西東社）

****

中国人から見た日本人の言語表現心理（１６）　　俞彭年

「しか」の表現心理

「しか」の表現心理は繊細微妙だ。日本語を学ぶ中国人はよく「だけ」と同じように理解して、「しか」を使うべきところに「だけ」を使ってしまう。つまり中国人は「だけ」を理解しやすく、「しか」の理解が難しいようだ。「だけ」を上手く使えることは「だけ」の表現心理が中国語にもあるということであり、「しか」がよく使えないことは「しか」の表現心理が中国語にはないということになる。

「だけ」のあとに肯定も否定もくる。しかし「しか」の特徴はあとに打消しを伴うことだ。これは提示助詞である「しか」は提示した事柄以外を否定することであって、肯定されるのは提示された事柄だけになる。肯定と否定が同時に表される表現だ。ある事柄の存在を否定すると同時にその他の存在を強く否定する、肯定と否定を同時に伝える言い方はどのような場合に使われるのだろうか。それはいろいろなのがあると予想していたのが外れて、結果は何々だけであったという場合ではないだろうか。

そして強調されるのは何々以外を強く否定することだろう。ところが、このような繊細微妙な表現心理が込められている「しか」にあたる中国語はないようだ。普通使われる訳語は「只」だが、「しか」は「只」にイコールしない。また「だけ」の訳語も「只」になるために「しか」と「だけ」がよく混同されてしまう。

例えば、「たった一度しか見たことがない」の訳は「只看过一次」「就只看见过一次」などが普通だろう。この中国語を日本語に訳し直したら、「たった一度だけ見ました」「たった一度だけ見たことがある」にもなる。つまり中国語では「だけ」と「しか」の区別がなくなる。

もし「只看过·一次．再也没看到过」と訳したらどうだろう。肯定の部分も否定の部分も同時に表されて、否定の部分も強調されている。「しか」の意味が出ていると思うが、二つの文になってしまい、全く意訳だ。これをまた訳し直すと、「たった一度だけ見て、そのあとは見たことがない」と「たった一度しか見たことがない」になるのではないか。「しか」の場合、二つの文が「しか」によって一つの文になるのだ。

「私は黙って見ているしかなかった」はどうだろう。訳すと、「我只好黙不做声地看着」となるのが普通だろう。「私は黙ってみているだけだった」を訳すと、やはり「我只好黙不做声地看着」になるだろう。しかし、「私は黙って見ているしかなかった」は「黙って見ている」以外にほかのやり方はないことを伝えている。だから「我只好黙不做·声地看着．没能做别的」にすれば「しか」の意味が出てくる。つまり「しか」は中国語の「只…，没（不）…」の形になる。だが、「没（不）…」の部分が隠されて出てこない。日本語を学ぶ中国人はこの隠された部分を知るべきであり、そしてふつうはこの部分を訳さないが、ときには「しか」をはっきりさせて「だけ」との混同を防ぐために訳しだしたほうがよい場合もあることを知るべきだ。

「しか」には前に述べたように予想が前提としてある。予想が外れて「しか」の結果になるのだから、この予想を否定の形「没（不）」で訳のなかに取り込んで「没（不）…，只…」のように訳せば訳が生きてくるように思えてならない。邪道だと非難されるかもしれないが、「しか」の実質を説明する上では役立つと思う。

例えば、「このことは私しか知らない」は「大勢の人が知っているだろう」という予想に対して「このことは私以外の人はみな知らない」ことを伝える。だから「这事别人都不知道的，只有我知道」と訳してはどうだろうか。

「中国語の勉強を始めてまだ半年しかならない」は「中国語の勉強を始めてもうだいぶ経つのだろう」という予想に対して「半年経っただけで長くはない」を強調している。だから「学中国活時間不長，开始只有半年」と訳してはどうだろう。

「私にはこれくらいのことしか出来ません」は「あなたはいろいろなことが出来るのだろう」という予想に対して、「そうではない。これ以外は何も出来ません」と伝えているのだ。だから「我不会做什么,只会做这么点儿事」と訳せば「しか」の意味が伝わると思う。

「彼が間違っているとしか考えられない」を見てみよう。前提の予想は「A か B か C か D か E か…誰かが間違っていると考えられる」になろう。だから「不能认为是其他人,只能认为是也錯了」と訳してはどうだろう。

前に挙げた例文「たった一度しか見たことがない」と「私は黙って見ているしかなかった」を訳してみよう。「何度もみたことがあるのだろう」という予想に対して「たった一度しか見たことがない」と言っているのだから、「看得不多,只看过一次」でどうだろう。「あなたはいろいろとやったのだろう」という予想に対して「私は黙って見ているしかなかった」というのだから、「我没有做什么,只好黙不做声地看着」ではいけないだろうか。

含みの部分をどうするかの問題に関わってくるが、その訳だけでは相手に含みがつたわらなければ、含みを適当に訳に入れるべきではないだろうか。これは日本人と中国人の言語表現心理がことなるからだ。

総じて中国人は物事を論理的に考え論理的に表すため、簡潔を求め重複を避ける。以上の「しか」の例文で中国語訳を二つの意味になるという部分は意味の上でやや重複の嫌いがある。つまり同じ事を異なる角度から述べるからだ。従ってよい訳とは言えなくなる。

****

「土佐弁と伊予弁」 方言の面白さ

池端千一郎

最近方言に興味を持つようになった。嬉しさや喜び、怒りや悲しみ、夢や願望などを心のままに、感じたままに表現するには、生まれたときから耳にして、喋りながら育った故郷の言葉、そう、口語でもある方言に勝るものはないと思うのである。

日本は広大な国ではない。国土面積は米国のカリフォルニア州より小さい。にもかかわらず、国内各地には実にいろいろな方言があって、例えば鹿児島県の方言と青森県の方言はもうまるで違う。もし両県の農山村部のお年寄り同士が方言丸出しで会話をしたら、お互いに半分もわからないだろう。

各地の方言はそれぞれにユニークで面白いが、私は四国の方言、中でも高知県の人が話す土佐弁と愛媛県の人が話す伊予弁が好きである。
まずは土佐弁について書く。
初めて土佐弁を知ったのは、司馬遼太郎の時代小説「竜馬がゆく」を読んだときだ。竜馬が夢を語ったり、決め台詞を言うときに「〇〇ぜよ」という言い方をする。これがなんとも男っぽく、きっぷが良く、大げさに言うと気宇壮大な感じがして、坂本竜馬という人物像と実に合うのである。もし竜馬が関西人で始終「あほらしい」とか言ってたら、薩摩と長州はまとまらなかったかもしれない。
男が自分の夢を語ったり、後輩や同輩に何ごとかを誘ったり、天下国家を論ずるのに土佐弁ほどぴたっとくる方言は他にないと思うのである。

さて、以下に土佐弁の具体例を紹介する。山本一力という作家が「ジョン・マン」というタイトルで中浜万次郎の伝記小説を書いている。小説は幕末から明治前半にかけて、日米間の通訳や洋式船の操船指導などを行った土佐出身の中浜万次郎（1827 年～1898 年）の 12 歳から晩年までの生き様を、伝記として書いたものだ。

中浜万次郎の伝記小説は山本一力以外にも、井伏鱒二が 1938 年に「ジョン満次郎漂流記」を書いて第 8 回直木賞を受賞したし、津本陽は 1994 年に「椿と花水木・万次郎の生涯」を読売新聞に歴史小説として連載し、後に文庫本として出版した。米国のマギーフロイスなども伝記小説を書いて賞を貰っている。

ところでこれらの作家の本の中から何故、山本一力の作品を選んだかと言えば、山本一力自身が高知県出身の作家で、中学校卒業までを高知市で過ごし、地元の文化、風習、歴史、地理などに詳しいという理由からだ。司馬遼太郎は小説「竜馬がゆく」の中で強い土佐弁の台詞をやや避けていたように思う。司馬は大阪生まれ。土佐弁ネイティブではないから、方言としてひときわ個性の強い土佐弁の使い方に自信がなかったのかもしれない。

さて小説「ジョン・マン」の中の土佐弁であるが、万次郎が 12 歳の頃に、生まれ育った土佐の中の浜の家から出て、同じ土佐の宇佐浦の網本の家に向かう商船の中で、偶然乗り合わせた宇佐浦の漁師が万次郎に質問する場面がある。以下は本文中からの抜粋を自分が編集した。

漁師が訊く。
「おまさんに、どういても訊きたいことがあるんやけど、さっきおまさんは、はるかかなたの（中の浜の）桟橋のほうを見て、両腕で輪を作ったりしよったろうが、あれはいったいなにをしよったがぜよ？」
　万次郎が答える。
　「おかやんに、行ってくるきを言いよったがです」
　男はひどく驚いて更に訊く。
　「おんしゃあ、船から（千尋以上も）離れた　おかやんが見えよったがよ？」
　万次郎が再び答える。
　「おれだけやのうて、　おかやんやち、ちゃんとこっちが見えちょったき」
　感心した漁師は、万次郎を試そうとさらに問うた。
　「ここから真直ぐ先に、おんしゃには何か見えるがかや？」
　じっと目を凝らした万次郎が答える。
　「船端を紅色に塗った漁師の船がおって、何人かで釣りをしちゅう」
　問うた漁師は目を凝らしたが何も見えなかった。
　同じ商船に乗り合わせた別の客がバカにしたように言う。
　「まだ年端もいかん子のくせに、ありそうなことを言うなや」
　それを聞いて漁師が言う。
　「ありそうかどうかは、じきにわかることじゃきに」
　そこから船が千尋ほども進んだころ、商船の左舷に漁船があらわれた。船端を紅色に塗っており、四人の漁師が太い竿を海に突き出していた。
　とまあこんな感じである。

山本一力は高知で生まれ育った人間ゆえに、状況や気分に応じた最適な土佐弁がごく自然に出てくる。つまり土佐弁が本物なのである。ちなみに万次郎の尋常ならざる視力の良さは、米国に渡り捕鯨船の正規乗組員となってからも多いに役立ったという。

代わって伊予弁の話である。同じ四国でも愛媛県、昔風に言うと伊予の国の方言となると、四国山脈を挟んで高知県とは反対側の隣接県であるにもかかわらず、響きもテンポも言い回しもまるで違う。古来、伊予弁は日本で最も悠長な言葉とされているのだ。

やはり司馬遼太郎の代表作「坂の上の雲」の中に、結核のために家で臥せっていた伊予出身の俳人正岡子規を、同郷の高浜虚子が見舞いと仕事上（雑誌ほととぎすの編集）の相談で訪れる場面がある。子規は妹の律や母の八重に言う。
「なにか食べるものはないのかなもし」
芋ならあると母の八重が言うと、子規は「芋でもお焼きなさいや」と言う。
芋が焼きあがると子規は、
「清さん（虚子のこと）おあがり、おあがりな」と言い、自分もムシャムシャと食べながら、「あしは薬も大事じゃと思うが、魚も大事じゃと思う。薬飲んで野菜を食うているよりも、薬やめて魚を食うておるほうが肺病のためには良いと思う。清さんどうお思いぞ」と言い、続けて「あしは医者でないけんわからんが、ともかく食べ物だけは少し贅沢せねばあしはいけんのじゃ。かというて、あしは最早この病からぬけだそうとは思うとらんぞな。病の中でも書き物をせねばならぬ。その書き物をするだけの体力がほしいのじゃ」と言う。そしてさらに、既成の論壇に対する自分の厳しすぎるほどの批判について、「あしはこげん悪口ばかりいうていて、それでも世間の連中が我慢してくれているのは、病人だからじゃ。これが達者な男なら、世間はとても我慢すまいぞな。これを思うと病人は得なものぞな」と。
まあ、こんな具合だから、すっかりのんびりしてくる

同じ四国の隣り合った二つの県の方言の違いは、あたかも両県が面している海洋の違いのようでもある。土佐の高知が面している海は太平洋。浜は外洋ならではの荒々しい波頭や激しく早い潮流に洗われる。毎年夏から秋にかけて、南からいくつもの台風がやってきて海は大荒れとなる。
一方、伊予の愛媛の浜が面しているのは一年中穏やかで波静かな瀬戸内の海だ。九州に上陸した台風がコースを右に曲げて愛媛にやってくることもあるが稀である。外洋そのものの太平洋と、内海そのものの瀬戸内海。その面している海の違いが、方言にも、県民性にも反映しているように思えて面白い。
****

海外の想い出： **森永善彦**

ポルトガル/オポルト空港での麻薬持ち込み容疑

暫く私の海外の想い出の投稿をご無沙汰していましたが、今回はポルトガルでの思い出についてお話します。その昔仕事でヨーロッパを担当していてポルトガルにも何回も行きました。ポルトガルはトヨタがヨーロッパで最初に車両の組み立てを始めた国で、トヨタとの関係は長く、その頃のトヨタのトップもポルトガルについては特別な関心を持っていました。
国勢は：人口１０００万人少し、国土は 91 千平方キロメートル。外務省のデータでは製造業が主産業となっていますが、農業も盛んです。因みに首都はリスボンです。

ヨーロッパにはポルトガルを含め多くの国に何回も行ったので、この事件が起こった年月日をはっきり覚えてはいません。１９８２，3 年頃だったと思います。パリから直行便でオポルトに着きました。ビジネスクラスは私一人しか乗っていなくてアテンダントのサービスが抜群に良く、勧められるままブランディ―のミニボトルをお代わりなどして快適な空の旅を満喫し、ご機嫌でオポルト空港に着きました。

オポルトはポルトガルの北部に位置し、リスボンに続いてポルトガル第 2 の大きな都市で、この町の近くにトヨタの代理店と組み立て工場が有ります。オポルトは食後酒として英国で好まれているポートワインの生産地でもあります。さて問題は税関で起きました。

ターンテーブルで受け取った荷物を税関に持って行くと、荷物のチェックが大変厳しく、スーツケースの中身を下着から洗面道具まで徹底的にチェックされました。挙句に旅行用に持ち歩いている洗濯用の洗剤の小袋を係員が取り出し、これは何だと言うので洗濯用の洗剤だと言うと開封して良いかと聞かれました。しょうがないのでどうぞと言うと開封し洗剤の粉を嘗めようとしました。舐めて変な味がしても知らないぞと思いましたが、したいようにさせたら指の先に少量を取りペロッと嘗めて案の定顔をしかめました。洗剤は苛性ソーダが入っているのでピリッとしたはずです。

それで漸く荷物検査は終わりましたが、荷物チェックに 1 時間以上掛かり税関を出たのはパリからの乗客の中で私が一番後になりました。 出迎えに来ていた代理店の部品部長がどうしてこんなに時間が掛かったのかと尋ねるので、税関の検査に時間が掛かり、彼らは粉石鹸まで調べたと説明しました。

彼曰く“前の日チューリッヒから到着した日本人が麻薬を持ち込んで逮捕されたので、日本人だから疑われたのだろう”と言う事で長時間の税関検査の理由が納得出来ました。しかし粉石鹸を嘗めた税関職員のしかめっ面は何時思い出してもおかしくなります。

なお因みにポートワインの話しをしますと、ポートワインは食後酒としてオポルトで醸造され主に英国に出荷されていました。昨年の全世界への輸出量は 640 万ダース、現在は最大の出荷先はオランダだそうです。

その昔日本にもサントリー製の赤玉ポートワインと言う甘い果実酒が有りました。ポートワインの規格は現在ポルトガル政府により厳格に管理されていて、ポートワインの名称は商標権が設定されているようで、サントリーでは今は赤玉スイーツワインと商品名を変更して販売しているようです。果実酒と言ってもアルコール度数は 14%位ある立派なお酒です。

高校生の時友達３人とリュックサックを担いで八ヶ岳を縦走し、山の上でキャンプして食事のカレーを食べながら、皆で赤玉ポートワインを楽しく回し飲みして、気持ちよく朝までぐっすりテントの中で寝た事を思い出します。

今なら未成年の飲酒問題になるのかも知れませんが、その昔は罪の意識も無くおおらかな物でした。　以上

****

コロナ禍のあと

大須賀四郎

新型コロナ騒乱、第二波、第三波と続くのかどうかわかりかねますが、とにかく早期収束を切望している。いづれ、世の中も、世界も、ニッポンも立ち直りに向けての社会・経済復興復活に取り組むことは MUST と思われる。

ひと昔、習ったことなど思いだす。米国 Franklin Roosevelt 大統領の時代、1930 年台の初頭と記憶していますが，いわゆる「NewDeal 政策」、Tennessee Valley Authority (TVA)、その一環の Hoover Dam 建設、広い意味での金融・財政資金

の combinaton による大失業・大不況・社会不安からの米国の脱出成功の歴史など今回のポストコロナの対策・政策として参考になるのではないかと思える。

我が国としての採るべき策

1） 政治都市・経済都市の分離・皇居の移転・・・東京圏集中を各地に徹底分散・拡散する。米国の場ワイ（Washington, NewYork,LA,Chicago などなどえ拡散している）、ドイツ（Berlin,Dussel,Frankfult など）、Brazil(Brazilia,RTio,Saopaulo), Canada(Ottawa,Tronto,Vancouver, Calgary etc) ,Australia(Canberra,Melbourne,Sydney, Perth, Brisbane etc)

あらゆる意味での格差軽減・縮小（所得、人口、教育機関、医療を含む社会福祉機関・施設などなど）を目指しての政策実行です。

皇居は東京に存在せねばならぬか？ 隅田川河口沿いの高層マンション・ビル群に萬という人々が住んでいるのは異常、人は朝まず起きたら地面に両足をつけたいもではないか？

2） 社会インフラ設備・施設の改修・新設・・・水道、ガス管 いずれも老朽化している。橋、電線の地中への埋没工事。

我が国の集積資産は3，000兆円前後との説も存する。言うなればこれは国全体としての「貯えた金」、rainy day に備えた「貯金」、今こそ蓄えた金を大胆に、勇気をもって使用するを政治指導者層に期待したい。 確かに1000兆円超、GDP の2倍を超えるような財政赤字で、次の世代の若い人々に借金をさらに増やすようなことは宜しくないとの意見も少なからず存するが、ここは思い切って、大胆に進めて、「復活・将来の我が国の繁栄に繋げること」こそが現在生きる国民の責務ではないかと愚考している次第。
皆様のお考えなどお伺い出来ますと幸甚です。
****

文化講座・講演会

****

新三木会

COVID19 感染症禍も、警報解除の方向にあります。新三木会は 6 月で満 10 周年を迎えますが、6月18日の会、制限遵守の為通常の半分しか（130 名）座席が用意出来ず、ご参加申込、満杯締切となりました。ご参加出来ない方にメールで録音記録、講義録、参考資料、その他を配信致します。（クラウド利用にて PC 容量のご迷惑はありません。）

講演は 小此木政夫氏（慶応義塾大学名誉教授）:

『袋小路に入った日韓関係—出口はあるのか』

（講演は 6 月 18 日、配信予定は 6 月 26 日）

目下約 50 名の方より、配信のお申込み頂いております。費用は千円で後払い、皆様のご応募をお待ちしております。

★7月講演予告　７月１６日（木）スターホール

『極端気象と地球温暖化について』 木本昌秀氏
東京大学大気海洋研究所教授

新三木会代表幹事　則松久夫
shinsanmokukai@gmail.com　　070-6994-0137

****

奈良・興福寺文化講座

（第２６６回）は、９月１７日を予定。
令和２年９月１７日（木）
午後５時半～６時半：第一講
「興福寺中金堂四天王像の当初の所在に関する考察」
東京国立博物館学芸企画部企画課長　浅見龍介
午後６時４０分～７時　・・・・・心を静める
午後７時～８時：第二講
連続講話・「維摩経入門」　興福寺貫首　森谷英俊
会場：（学）文化学園　文化服装学院内
受講料：５００円　　先着２００名
（ＪＲ新宿駅南口、小田急線、京王線各新宿駅から８分、都営新宿線新宿駅３分）

****

事　務　局

****

＜投稿＞を歓迎します。
＜プリント版・郵送＞
メール版を編集してプリント版を月に1回発行し郵送しています。
お申込み頂ければお送りします。一応、実費として月＠３５０円（４２００円/年）をいただいておりますが、強制するものではありません。
＜振込先＞三井住友銀行「神田支店」（普通）７８７１５３２
（口座名）テンチシニアネットワーク

天地シニアネットワーク・テーブル・５０８号
発行：２０２０年６月１５日
天地シニアネットワーク事務局　（津田　孚人）
〒１１６－０００１荒川区町屋３－２－１
ライオンズプラザ町屋７０３
メールアドレス：tentisenior06@gmail.com
電話・FAX・０３－３８１９－７６５１